

平成 28 年 8 月 2 日

南の風 193

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

アカツキファイブについてです。リオオリンピックが3日後に近づきました。男子は残念ながら世界最終予選で敗退し、オリンピックへの道が閉ざされてしまいました。女子には男子の分まで頑張ってもらいたいと思います。

出場チームは12チームです。6チームずつ2つのグループ(A,B)に分かれ、1回戦総当たり戦を行います。各グループ上位4チーム、計8チームが準々決勝に進出します。日本はグループAに入りました。グループAには、次のチームが参加します。※()の数字は現在のFIBAランキングです。

○オーストラリア(2位) ○フランス(4位) ○ブラジル(7位)

○ベラルーシ(9位) ○トルコ(11位) ○日本(15位)

予選ラウンドの第1ゲームは、ベラルーシ VS 日本です。8月6日(土)19:45にYouthで行われます。ぜひ予選ラウンドを勝ち抜き、メダルを目指してほしいものです。

さて、昨年のアジア選手権から今年5月と7月のBE THE CHANGE CUPのゲームから、私なりの女子アカツキファイブの実力を検証したいと思います。アジア選手権決勝の中国戦については、南の風でも取り上げました。兎に角すべてがうまくいった感じのゲームでした。

今回は、BE THE CHANGE CUP(5月大会、7月大会)の様について書きます。

まず5月の対オーストラリア戦です。3戦やったのですが、1~2戦は大差で負けました。オーストラリアが、世界2位の実力を見せました。それでも主力の4人がWNBAやユーロリーグの関係で来日していませんでした。日本も渡嘉敷選手がWNBA所属の関係で参加できませんでした。

第3戦の感想です。まず気が付くことは、オーストラリアの選手全員が3Pのシュートも含めて片手で打っていることです。そして決定率も極めて高いことです。190cm以上の選手が3Pエリアから躊躇なく打っていました。勿論むやみに打つのではなく、オフェンスのシステムの中でということです。

一方アカツキファイブの女子選手は、ロングシュート(3Pを含めて)を含めて両手です。確率も悪くはありませんでした。(スタッツで見ると30%前後)特に本川選手、栗原選手の3Pの決定率は高かったです。

現在、日本のU-18エンデバーの講習では、片手のシュートを推奨しています。この南の風でも触れましたが、ミニのカテゴリーから徹底する必要があります。いきなりロングや3Pというのではなく、ゴール下のシュートから馴染ませたいものです。小学校の1年生からでも十分対応できます。

次に気が付くことは、オーストラリアは2m級の選手が速攻で走るということです。ターンオーバーや得点を決められた時に、しっかり速攻の前線を走っていました。ちょっとでも日本のハリーバックが遅れたり、ピックアップが遅れたりするとゴール下のイージーショットを決められてしまいます。センターが走ることの重要性を見せつけられました。日本の選手も走りますが、センターが走るという点では、オーストラリアの方が勝っていました。今回は参加しませんが、日本の渡嘉敷選手はセンターとして走ることができるプレイヤーです。次回は両チームのタクティクスについて書きます。